

平成22年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 612

所管部局	教育委員会	所管課	学校教育課	担当者名	寺田 成樹
事業名	小中連携教育研究事業			事業分類	ソフト事業
細事業名	小中連携教育研究事業			政策体系	122
会計	一般会計	科目	10.教育 - 1.教育 - 2.事務		

1. 事業の概要

市内3校を実践研究校と指定し、中学3年生の学力を見据えた小・中一貫したカリキュラム（教育課程・学習内容・学習方法）を創出する研究実践であり、文部科学省の委託研究事業（公募事業）の採択を受け、平成20年度から2年間実施。

2. 事業の目的と必要性

① 施策で目指す目標との関連付け

未来を担う人材育成という観点から、研究指定校を中心に、小・中学校の学びの連続性にテーマにおいた研究活動を行い、研究教科（国、算・数、英）の授業の在り方に関する研究を行い、市全体に反映させることを目的としている。

② 事業を実施する必要性

小・中学校の学びの連続性をテーマとして、文部科学省から研究指定を受けて行うものである。小中一貫した教育に係る研究と、その結果の波及活動は、今後の南丹市の卓越した学校教育を目指す上で、また、確かな学力を身につけさせる上で、必要不可欠なものとして実施した。

3. 事業費の推移

	単位	平18決算	平19決算	平20決算	平21決算	平22予算	平23計画	平24計画
決算額または計画額	千円			216	245	0	0	0
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等	千円			0	0	0	0	0
財源内訳	使用料・手数料等	千円		0	0	0	0	0
	国・府支出金	千円		208	245	0	0	0
	地方債	千円		0	0	0	0	0
	一般財源	千円		8	0	0	0	0
職員等の従事人員	人/年	—	—	0.47	0.65			
人件費	千円	—	—	2,018	2,456			
事業費総額	千円	—	—	2,234	2,701			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。
 ※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

4. 主な事業費の内訳

研究実践に係るスーパーバイザー助言指導（謝金）	90,000円
研究実践指定校（全国）協議会等参加（旅費）	73,720円
研究会資料作成費用	31,500円

5. 事業結果の概要

園部中学校ブロックを実践地域としての最終年度として、市内全校に波及する研究結果を生み出している。（実践校は、園部小学校、園部第二小学校、園部中学校）

- 事業実践校・・・全国53校（2府6県）
- 実践研究教科・・・国語、算数、数学、英語

6. 活動の詳細

活 動 内 容	活動日又は時期	活 動 結 果 等
1. プロジェクト会議		
①小・中連携プロジェクト会議 ②算数・数学小中学校部会会議 ③外国語活動・英語小中学校部会会議 *スーパーバイザーの指導助言	通年（6回）	各研究内容の確認と推進 ①授業展開の基本型の作成 に向けて ②家庭学習の習 慣化に向けて ③指導系統 表の作成に向けて
2. 研究発表会分科会運営会議		
研究発表会における分科会の進め方について協議	10月	国語・数学（算数）・英語 （外国語活動）各分科会の 進め方の確認
3. 研究発表会		
2年間の研究成果の発表（国語・数学（算数）・英語 （外国語活動））を、各拠点校（園部第二小、園部 小、摩気小、園部中）を会場に開催	11月	府下の小・中学校から160 名の参加
4. 研究協議会への参加		
全国の同一事業実践校による検討会議 第1回目：実施計画の内容交流 第2回目：最終経過内容の交流	5月 2月	

7. 所属長評価〔平成20年度から改善した点、今後の展開など〕

京都府内で本事業の採択を受けたのは3市町であり、注目度の大きい事業であった。小中連携・接続等一貫した教育に係る研究と、その結果の波及活動は、今後の南丹市の卓越した学校教育を目指す上で、また、確かな学力を身につけさせる上で、今後益々重要であり、必要な実践内容である。国からの採択事業としては今年度で終了するが、今後も継続発展した取り組みを検討する。

【参考】過年度の評価

■平成21年度の所属長評価

府内で本事業の採択を受けた市町は3市町となっており、その注目度は大きい事業である。また、本事業を通じて、本市がその重点項目とする小・中の一貫した教育という観点からも、今後益々重要な観点であり、必要な実践内容であると考えられる。次年度が最終年度となるが、この実践を基礎として、今後も継続発展した取組を考えたい。